

井戸尻考古館知って

境小6年がキャラクター制作

土偶や土器モチーフ



缶バッジ作りが進む教室で井戸尻つっちーずをPRする富士見境小6年の児童

「井戸尻つっちーず」5体

富士見

地元の自慢で
ある井戸尻考古

館を多くの人に知ってほしい

と富士見町境小学校6年生20人は、所蔵されている土偶や土器をモチーフとした5種類のキャラクター「井戸尻つっちーず」を制作した。キャラクターの缶バッジが入ったカプセルトイの自販機を同館に26日から設置するほか、同日の富士見OKKOHでも自販機を置き、ストラップやヘアゴムづくりのワークショップを行う。

26日からカプセル

トイ自販機を設置

児童が作ったキャラクターは▽仮面土偶の「おーちゃん」▽人面深鉢の「あらたん」▽巳を戴く神子の「みこちゃん」▽始祖女神像の「はあちゃん」▽嘆きの土偶の「なごちゃん」の5体。井戸尻考古館を盛り上げるために異次

元ホールをくぐり抜けてやってきたという。

このうち「はあちゃん」は始祖女神像の顔がハート型に似ていることから名づけられた。「いつもモジモジしている女の子。お世話好きで、困っている人がいるとじっとしていられない」と設定されている。

はあちゃんの魅力を「だじやれ好きで、どじでかわい」ところだという平野樹那さん(11)は、キャラクター作りを通して「土器や土偶は地域の宝物だと感じた」と話し、缶バッジの販売によって「井戸尻考古館に行ってみた」と思ってもらえたら」と期待している。

富士見OKKOHではメイン会場の富士見グリーンカルチャーセンター前にブースを設ける。午後1時〜5時。缶バッジは色違いや柄違いなどで50種類を用意。カプセルトイには井戸尻考古館の小松隆史館長の解説を児童が手書きした説明書や同館の割引券も含まれるおみくじが封入される。

キャラクターの缶バッジ作りは、町と町教育委員会が「ア

ントレプレナーシップ(起業家精神)を身に付けてもらうと始めた「子どもチャレンジ支援事業」に採択され、10

万円の交付金を受けた。児童たちは「井戸尻考古館もりあげたい(隊)」として活動している。